

高学年授業改善プラン

	児童の課題	改善策
国語 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を正しく活用すること。 ・言葉の意味や使い方などを理解し、目的や意図に応じて適切な言葉を選んだり用いたりすること。 ・目的や意図に応じて、自分の考えが相手に伝わるように、構成や表現を工夫して話したり書いたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字ドリルやノートでの練習だけでなく、自主学習で書き取り練習をしたり、漢字小テストを通して自分の苦手とする字を把握したりできるよう指導を行う。さらに、日常の中で文や文章を書く際には、既習の漢字を使ったり、熟語を用いて書いたりするよう指導し、漢字を正しく活用して使う習慣が身に付くようにする。 ・「読むこと」の学習において、文章の中で用いられている接続語や修飾語などの言葉について、使い方や効果を、実感をもって理解できるようにする。また、「話すこと」や「書くこと」の学習でも様々な言葉を活用することで、適切に言葉を用いることができるようにする。その際、教科書の末尾に掲載の用語集や国語辞典などを積極的に活用する。 ・情報の収集や構成メモの作成など、文章を書いたり、考えを話したりする前に内容の準備や検討が十分にできるように指導計画を立てる。また、Chromebook を積極的に活用することで、言葉の順序や表現の工夫などをより検討できるようにする。説明的文章で学んだことと関連付けながら指導することを通して、文章構成や事例の挙げ方、図表の効果的な使い方などについて理解を図る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ・語彙を増やしたり、漢字を正しく覚えたりすること。 ・考えたこと、伝えたいことを的確に話したり、相手の意図をつかみながら聞いたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図を全体で確認した上で、教科書を活用しどのような文章を書くかを全員が理解してから学習を進める。 ・文章の構成を考えたり推敲したりする時間を十分にとり、自分の文章を読み返したり、友達が書いた文章を読んだりする回数を増やす。また、書き直しが比較的簡単な Chromebook のスクールタクトなどを活用する。 ・読書・学習の時間等で読書の時間を確保し、多様な語句に触れて、語彙を増やせるようにする。 ・漢字小テストを通して自分の苦手とする字を把握し、直しを行わせる。さらに、日常の中で文や文章を書く際には、既習の漢字を使うことを継続して指導する。 ・自分の考えをペアやグループで伝え合う時間を確保する。話し合い活動では、目的・意図を確認し話し合い方を理解させた上で行う。
社会 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や地球儀、統計などの資料を通して、情報を適切に読み取ること。 ・社会に見られる課題を把握し、資料などを活用して考察したり、説明したりすること。 ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとすることや、より社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取る際の視点を示し、その資料と課題を結び付けて指導する。また、デジタル教科書や電子黒板などを積極的に活用し、視覚的にも理解しやすいように学習を工夫する。 ・知識・技能としてだけで学習を捉えるのではなく、社会的な見方（時間的・空間的・関係的）・考え方（比較・分類、関連・総合）を働かせ、学習問題をまとめたり発表したりする機会を授業の中で増やしていき、思考力、判断力、表現力等を高めるように指導する。 ・水産業や工業など、生活と深く結び付いている単元は、自分たちの生活との関わりから、課題に気付かせるようにする。また、国民の生活が食料生産や工業生産などの産業につながることに気付かせ、三行と国民の生活を関連づけることができるように指導する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集や地図帳などの基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の特性に留意して情報を集めたり読み取ったりすることを確認し、社会的な見方（時間的・空間的・関係的）・考え方（比較・分類、関連・総合）を生かして資料を読み取るよう指導し、教科書だけでなく、資料集や本、インターネット検索な

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の特色や課題、関わり方などについて、考えたことを説明したり議論したりすること。 ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料から情報をまとめることができるようにする。また、デジタル教科書や電子黒板を活用してポイントを示しながら、資料から読み取ったこと、そこから考えられることを分けて指導する。 ・用語の復習を行い、人物や出来事への理解を深める。 ・ポイントや例示を示した上で、考えたことを文章で記述し、それを読み合ったり発表したりすることや、資料などを用いて説明したり、根拠や理由を明確に議論したりすることを適宜行い、思考力・表現力・判断力等の向上を図る。 ・児童が夢中になるようなクイズ等を取り入れることで、楽しく学べる雰囲気を作る。 ・他教科等との関連を図ることや、これまでの学習を振り返ることをしながら、多角的に考えたり社会生活との関連を考えたりしてまとめる活動を行う。自分で考える時間を十分に保証した上で、それをグループや全体で検討したりする活動を設定し、より自分事として捉え考えられるようにする。
算数 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生までに学習している整数、小数の四則演算を正しく計算すること。 ・小数のわり算を正しく計算すること。 ・三角定規、コンパス、分度器等を正しく使って作図すること。 ・三角形の構成要素に着目し、合同な三角形をかくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で計算する機会を増やしたり、既習の計算の仕方を繰り返し丁寧に確かめたりする。 ・定着が不十分な児童には、補充のプリントを配布したり、授業の始めに数問の計算練習の機会を作ったりする。 ・特に小数で割る計算については、じっくりコースを中心（その他コースでも状況に応じて）に、筆算の手順の確認や小数点の位置の移動の確認をする。 ・定着が不十分な児童には、補充のプリントを配布したり、授業の始めに数問の計算練習の機会を作ったりする。 ・授業の中で、既習の作図の仕方の確認や、各種用具の使い方の確認を丁寧にやる。 ・定着が不十分な児童には、休み時間や放課後に補習をする。 ・合同な図形や対応する辺を表すときには、対応順に表すことを確認し、習慣化を図る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の事象における数量関係に着目し、比を割合の適用場面で考えること。 ・式や記号の意味を正しく理解すること。 ・数学のよさを実感し、生活や学習に生かそうとすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比を既習の割合と関連して捉えさせるために、比を簡単にするのと約分の関係ととらえさせる。数量の関係を把握するために線分図と式を関連させて考えさせるようにする。 ・小数や分数で割る意味やかける意味を整数の計算に帰着させて考えるようにする。数直線の図や言葉の式を基に考えさせる。このような立式の根拠をテストやノートに示すように指導する。また、式や記号の正しい使い方について場を捉えて学年全体で指導する。 ・振り返りは学習内容のまとめりごとを書くようにする。より価値があり、具体的な振り返りが書けるように、振り返りを書く際に観点を示したり、よい振り返りについて紹介したりする。
理科 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・条件制御について理解し、それを基に実験・観察の方法を考えること。 ・科学的な用語、基本的な知識などの定着。 ・実験や観察の結果を基に考察し、自分の考えを自分なりの言葉で表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたいことに関わる条件のみを変えることを繰り返し指導する。 ・変える条件と変えない条件が一目で分かるようにするために、マトリックスなどの思考ツールを活用する。 ・科学的な用語は、授業内で意識的に使用するよう指導しする。また、学習事項や関連した既習内容を復習する時間を取り、理解の定着を図る。 ・結果と考察、結論の違いを明示して指導するなど、単元の学習の流れを児童と共通理解して授業を進める。 ・クラスで結果を共有したあと、考察や結論を考えさせる前に問題を再度確認し、それに対する答えとなるように書くこと

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを日常生活の事象に活用して考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> を繰り返し指導する。 ・教科書の単元末に設定されている「学んだことを生かそう」において、学習した内容の中でも具体的にどのようなことと関連付けて考えればよいのかをクラス全体で考えたり、問題で設定されている場面以外でもどのような場面で活用できるかを出し合ったりする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験などで用いる様々な器具に関する基本的な技能を身に付け、その意味を理解すること。 ・観察、実験などの結果を基に、多面的に考え、より妥当な考えをつくりだすこと。 ・学習したことを日常生活の中での事象に活用して考えること。 ・科学的な用語、基本的な知識などの定着を図ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が器具を操作する機会を設ける。また、使い方を確認する際や結果をまとめる際などに、実際に行う（行った）器具の操作にはどのような意味があるのかを考えさせる。 ・観察、実験前には、課題に対する予想を立てさせ、その際、自然現象や過去に行った関連する観察や実験を想起させる。また、結果を基に考察する際、予想や仮説、自分の経験や知識などを関連付けて考察するように促す。 ・学習した内容と生活が結び付くように、日頃の生活に立ち返って考えさせる。 ・学習事項と関連した既習内容を復習する時間を取り、理解を定着させる。
音楽 5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞活動において、作者の思いや意図、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら楽曲を味わうこと。 ・歌や演奏活動において、自分の思いや意図をもち、それにふさわしい表現をするために必要な技能を身に付け、人前での表現発表に慣れること。楽譜を読み解き、強弱記号や音の高低などから表現の工夫を考え、実践すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ取ったことを起点に、その理由を、音楽を形づくっている要素の働きとの繋がりに気付けるような発問や、調べ学習を多く取り入れる。また、音楽を言葉で表すことに慣れるため、感じ取ったことや気付いたことをグループで伝え合うなどの活動を充実させる。 ・音楽に対して「こんな風に演奏したい」という自分の思いや意図をもてるよう、デジタル教科書や楽譜に書き込めるプリントなどを活用して、楽譜と音との関連を意識できるようにする。その曲のよさを感じ取り、表現活動につなげていくようにする。思いを実現し、表現するための知識や技能を身に付けた上で、自信をもって演奏できるようにする。少人数のグループ発表の機会を増やし、人前で表現することにも慣れていく。
図工 5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に愛着をもち、素材や用具に主体的に関わりながら活動すること。 ・用具や材料を安全で適切に使うこと。 ・自他の作品のよさや面白さを認め合い、鑑賞することの楽しさを味わうこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が作品や素材に愛着や意図をもつことができるよう、児童自身が形や色を選択できる機会を多く設ける。 ・素材のよさや面白さを全体で共有する場を設けたり、そのよさや面白さを生かしながら制作する児童を意図的に取り上げ、価値付けたりする。 ・児童自身の作品に自己の思考の変化や広がりを感じられるように、毎時間振り返りを行ったり、ある程度の題材時間を確保したりする。 ・用具や材料は児童が使いやすいように手入れや準備を行い、ICTを活用しながら正しい使い方をしっかりと全体に指導する。具体的な使い方についてはそれぞれの児童の熟練の程度によって個別に指導していく。 ・題材の面白さを全体で共有するだけでなく、個々で作品について語り合う場を題材ごとに設ける。 ・ICTを活用し、日頃から友達の仕事を見ることできるようにする。
家庭 5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験が乏しく、家庭生活への関心が低いこと。 ・生活の中から問題を見いだすことができないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を工夫して、問題解決的な学習の質を高める。自分の家庭生活を見つめて題材に関する問題を見いだして課題を設定し、目的意識をもって学習に取り組むことができるようにする。実践的・体験的な活動を重視した活動を通して、必要な基礎的・基本的知識及び技能の定着を図る。身に付けた知識・技能を活用して計画を工夫し、実践活動を行う。更に、家庭・地域での次の実践につなげ、継続的な実践を促す。 ・ICTを活用し、考えを交流し合うことで多様な解決方法に

		<p>気づき、自分の生活と関連付けながら家庭生活を工夫できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭科だより」を発行し、学習のねらいや内容を知らせ、家族が学習の意義や内容を理解できるようにして協力を得る。また、家庭実践においては、家庭からの一言を依頼し、児童が家族の役に立つ喜びを実感し、実践意欲が高まるようにする。 ・サポート松仙の協力を得て、実技面で遅れがちな児童への支援や安全対策を充実させる。 ・調理実習については、昨年までは感染症対策を取り、一人実習を行っていたが、今年度は全体実習に変えて一斉に取り組めるようにする。
体育 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識があり、運動に消極的な児童がいること。 ・自己のめあてを意識して課題を設定し、課題解決に向けて思考・判断をするとともに、友達に伝える力を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心が高まるような単元の導入の工夫をすることや単元の流れを理解し、学習の見通しをもつことで体を動かして楽しく運動できるようにする。運動を通して、自己の課題を解決したり、友達と協力したりすることで、体を動かす楽しさや喜びを味わえるようにする。練習の場や練習の方法を工夫することによって、運動が苦手な児童の支援をしていく。 ・ワークシートの活用をしたり、友達と教え合ったりしながら、自己の課題を明確にする。振り返りでは視点を設けることで、学習課題に対して解決するための思考ができるような環境作りを授業の中で整えていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識をもっている領域の運動に対して、意欲的に取り組んだり、自分にできそうなことに挑戦したりすること。 ・自分のめあてや課題を設定し、それに合う練習の場や方法を選ぶこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その領域の主たる運動につながる楽しい補助運動を単元や授業の始めに設定したり、どのような練習をすればできるようになるのかというポイントを明確に示したり、スモールステップで練習できる場や練習方法を工夫したりする。 ・学習カードに、毎時間、自分のめあてや課題を書かせ、それが適切であるかどうかを必要に応じて助言する。多様な練習の場や方法を準備するとともに、どのようなめあてや課題を設定した場合にその場や方法が有効であるのかを明確に示す。
外国語 5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を通して積極的にコミュニケーションを図る力を養うこと。 ・長めのストーリーを聞いて話の内容をとらえること。 ・身近なことについて簡単な文章をかくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が話す機会を持ち、授業に参加できる場を設定する。 ・ALTと教員とのスモールトークを聞かせ、話の概要をつかませるとともに、ターゲットフレーズを繰り返し練習する。 ・コミュニケーション活動は少人数で行い、一人一人が少しでも多く話せるような工夫をする。 ・ゲームを通して楽しくコミュニケーションを図る。 ・音声を聞く前に、イラストを見ながら内容について十分にやり取りを行う。 ・聞こえた単語を出来るだけたくさん書かせ、それを元にどんな内容だったか推測させたり、話の順番を考えたりする活動を取り入れる。 ・自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く。 ・アルファベット大文字と小文字は帯時間で継続して取り組む。 ・4線を意識させながら文字を書かせる。